



Subaru

ニュース758

男声合唱団

‘21.7.7

# 7月から本格的レッスン開始、コロナ対策 油断せず、今一度しっかりと！

1月2日



□7月2日(金)18:00～20:30 ねむかホールで、昴定例レッスンが開催されました。

□奥村さんのストレッチ体操、千秋さんの声楽レッスンのあと、6月27日のレッスンに引き続き、本並先生の指揮、門万沙子さんのピアノ伴奏で、

「春のメドレー」より

- ・どこかで春が
- ・どじょっこ ふなっこ
- ・春の小川
- ・花の街
- ・春の唄 の5曲を、この日は音取りのみおこないました。

□休憩・通風の時間を持ちました。

□引き続き、本並先生の指揮で、「いのちの歌 with Frute&piano」(作詞:Miyabi 竹内まりや、作曲:松村崇継、編曲:本並美德)のレッスン・音取りを行いました。3部合唱で。

□休憩のあと、本並先生から、「朧月夜(はる)」文部省唱歌/高野辰之作詞、岡野貞一作曲、三好晃編曲)4部合唱について、歌の練習はせず、曲の解説・説明をされました。

特にこの曲の特徴である、転調の特徴についての説明がありました。

ハ調から始まり転調が2回あり、その後ハ調に戻ることについて、

□最後に、合唱発表会の二曲通し練習を行いました。  
「日々草」繰り返し無し  
「U Boj!」2番も歌う

なお、参加者は 指揮 本並 美徳先生  
ピアノ:門 万沙子さん、伊藤さんはお休みでした。

団員:14名(T1:6人、T2:2人、BR:3人、BS:3人)全参加者は計16人でした。

参考:

昂 ワクチン接種状況(2021.7. 2 日現在)

指揮者・ピアニストを含む 計 29人

2回とも済み 13人

7月中に終了予定 13人

8月に終了予定 3人

定期レッスン 参加者割り振り表 2021年7月					(敬称略)
パート	7月2日(金)	7月16日(金)	7月18日(日)	7月30日(金)	
T1	鈴木	吉田		立川	
	立川	若園		小西	
	小西	山本		吉岡	
	吉岡	鈴木		吉田	
	千秋	千秋		千秋	
T2	大島	大島		大島	
	更家	更家		更家	
	中谷	中谷	14時 から	中谷	
	米川	米川		米川	
	伊藤	伊藤		伊藤	
BR	岩崎	大橋		岩崎	
	奥村	奥村		大橋	
	山口	向井		向井	
	春木谷	春木谷		山口	
	西村	仲谷		吉川	
BS	岡邑	光本		光本	
	川妻	岡邑		岡邑	
	東尾	川妻		川妻	
		はが		はが	
		東尾		東尾	

以下は、7月のスケジュールです。

7月 1日 (木)	千秋教室①	18 : 15~	ねむかホール
2 日 (金)	中村教室 ②	13 : 45~	〃
2 日 (金)	T 1 パートレッスン	16 : 00~	〃
2 日 (金)	定期レッスン	18 : 00~	〃
5 日 (月)	中村教室 ①	14 : 30~	〃
6 日 (火)	T 2 パートレッスン	18 : 00~	〃
13 日 (火)	昂 推進委員会	17 : 00~	〃
13 日 (火)	Br・Bs パートレッスン	18 : 00~	〃
15 日 (木)	千秋教室②	18 : 15~	ねむかホール
16 日 (金)	技術部ミーティング	16 : 15~	〃
16 日 (金)	定期レッスン (人数制限)	18 : 00~	〃
18 日 (日)	運営委員会	10 : 00~	〃
18 日 (日)	定期レッスン	14 : 00~	桃谷教会
30 日 (金)	定期レッスン	18:00~	ねむかホール

広報部長様

中谷さんから素敵な随筆が届きました。

皆さんにお知らせ頂きますようお願いします

2021.7.1 KOJI YAMAMOTO

**(投稿)**

「昴の運営ご苦労様です。

とりとめのない雑文です。

本来は、緊急事態宣言期間の長期レッスン休止中に出そうと思って書きかけたのですが、  
ほっておけない用件のために書き終わるが遅れてしまいました。

「昴」高齢者グループ団員の想いの一端です。

時期外れの一文ですので、ボツでも良いですよ。

とりあえず添付しますので、取扱いは一任します。」(T2・中谷清一)

**コロナ禍雑感**

昨年初め、日本で発症が報じられた新型コロナウイルス。1年半が経過してもなお、収束の兆しがみえません。日本ではやっと5月に入り高齢者を対象にしたワクチン接種が始まりました。昨年2月に開催された大阪のうたごえ祭典を最後にイベントの中止が相次ぎ、合唱練習そのものが思うに任せない日々がつづいています。「昴」は6月末から、感染症対策をしながらの練習再開を始めましたが、いつ感染拡大の波で練習中止に追いやられるか不確定な中での再開である。未だ発症原因も解明されないこの未知のウイルスによって私たちの日常に大きな制約・困難が降りかかっている今日この頃です。

私は「昴」に入団して間もなく13年。この間に、多くの仲間が様々な事情から去って行ったり亡くなられたりしましたが、自分は80歳にしてなお、「昴」の仲間と一緒に歌えることの歓び・ありがたさを感じています。コロナ禍で合唱歌ホールに行けない日は、可能な限り地域で年金者組合など高齢者運動と合唱活動に必要な基礎体力維持のため、ウォーキングとストレッチ体操で加齢による体力低下防止に努めています。

**うたごえ新聞のこと**

合唱活動に制約があっても「うたごえ新聞」は毎週自宅に送られてきます。

うたごえ新聞は「昴」入団の時に、これも授業料の一部と思って読み始めましたが、特別な興味もなく何となく時間に余裕のある時に見ていた程度でした。それでも、最近の同紙で興味を寄せる人の文章をよく読みます。

日本を代表する音楽家の一人、池辺晋一郎さんの連載「空を見てますか」はなんと千数百回にもおよんでいる。音楽家としてのプロフェッショナル・池辺晋一郎さんという人柄とともに、文筆活動家としても同紙にとってなくてはならない存在となっています。

池辺さんとともに私は最近、うたごえ新聞によく登場するジャーナリスト・伊藤千尋さんの読み物に魅かれるのです。

最初に伊藤千尋さんを知ったのは十数年前でした。私の居住する高石市に「9条の会」が発足して間もない頃、学習会の講師としてお招きして日本国憲法について講演していただきました。伊藤千尋さんは、朝日新聞の記者として国内外での取材活動と住民の日常生活を絡めて、日本国憲法の世界に誇る気高さを語られました。十数年前の話なのでおぼろげながらの記憶ですが、コスタリカという中米の小さな国の話が今でも頭の隅に残っている。半世紀ほど前の米ソ冷戦時代、資本主義の代表・アメリカと社会主義・キューバの国情を身近に見ながら、小国・コスタリカが取った国の進路は、国民が豊かに暮らしてゆくためには戦争のない「平和・中立」がベストだとして、軍備を廃止して膨大な軍事予算を教育と環境保全へと転換し、大学まで教育を無償化にした話。そしてこの国には、日本国憲法9条が刻まれた碑が建てられたこと。

私がお聞きした伊藤千尋さんのもう一つの講演は、2011年東日本大震災の翌年だろうか。フクシマ原

発事故後、年金者組合の学習会で講師としてお招きした際の「村おこし」の経験事例である。伊藤さんは、私たちは地震列島と言われる火山の上で生活している。地下深く巨大なエネルギーの存在を指摘し、原発よりこの地熱エネルギーの活用に目を向けた日本の小さな村の経験を話された。この村の予算規模からすると、当初は設備工事や稼働のための実験など経費は財政的に厳しい取り組みではあったが、稼働して数年後には村の電力を生み出し、使用済みの熱湯は暖房や温泉用として活用している。自然エネルギーですから、この発電燃費はゼロである。この村おこしの経験が周辺にも知られて温泉客もやってきて村の財政を潤している話である。記憶に頼った文章のため不正確なところもありますが、同氏の話には聴衆をワクワクさせ勇気を与えてくれたのを憶えている。

## 伊藤千尋さんの歌心

いつの頃からか、この伊藤千尋さんがうたごえ新聞でよく見かけるようになった。新聞記者出身のジャーナリストですから、政治・社会や国民生活の現状などへの鋭い洞察力で歌の生まれた社会背景をかみ砕いて解説してくれます。新聞記者出身ですから内外の国民生活について詳しいのは当たり前と言えばそれまでだが、人々の暮らしと歌心の関連性・一体感を教えられるのです。

6月7日付うたごえ新聞に掲載された、“伊藤千尋の歌で訪ねる世界③”「さらば恋人よ」の歌と解説文を興味深く読みました。

歌詞は第2次大戦中、イタリア・パルチザン兵士の死を覚悟した恋人への別れの言葉である。その歌詞の一節は「ある朝 目覚めて さらばさらば 恋人よ 目覚 われは見ぬ 攻め入る敵を ……」。早速、YouTubeで検索すると、ダークダックスのソフトな男性ハーモニーが聞こえてきた。初めは静かに優しく、そして時には激しく歌います。歌詞は若者だが、旋律は私たちの年代が歌っても違和感のない単純な主旋律。男声合唱バージョンで歌いたくなりました。

それにしても、伊藤千尋さんという人は、実体験に裏打ちされた文筆家であるとともに聞く人に前向きな気持ち・勇気を与える話術の持ち主であるだけでなく、歌に対する深い造詣の持ち主で、うたごえ新聞にとって貴重な文筆家を得たものだと思っています。

今後とも、同氏の歌と時代背景、そして歌と人々の暮らしなどの解説を楽しみにしていきたい一人です。(T2・中谷清一)



7月3日(土)万博記念公園の「アジサイ園」へ「相方」とウォーキングを兼ねて5km歩いてきました。親子・家族連れと、シニアの散歩。人出も少なく、コロナの心配もなく、今満開の紫陽花、堪能しました。(編集子)